

最近の  
話題

## 諏訪湖の環境改善に向けた取り組み

諏訪湖は、これまでの取り組みによりアオコの発生が減少し、水質は中長期的には改善傾向ですが、沿岸域における浮葉植物のヒシの大量繁茂や湖底水の溶存酸素(DO)の低下(貧酸素水塊)などの課題が生じています。

長野県では、平成26~27年度に環境省委託事業「湖沼下層DO・透明度改善モデル事業」を活用して、湖底を砂等で覆ったり(覆砂)ヒシ種子の除去を行い、その効果を水質・底質や生物の調査などを通じて確認してきました(写真)。

これまでの調査では、覆砂による明確な効果は確認できておらず、覆砂の形状、規模など様々な条件を検討する必要があります。ヒシ種子の除去については、継続的に行うことによりヒシの量を適正に保つ一定の効果があることが分かりましたが、さらに、より効率的な除去作業手法や適切な実施時期の検討などが必要です。

環境省の委託事業は平成28年度も引き続き実施しており、当所でも、覆砂工事前後の水質・底質調査やヒシ種子除去前後の水質調査などを行っています。

一方、諏訪湖流域から流入する汚濁物質の削減も諏訪湖内の環境改善とともに重要です。特に、諏訪湖水質保全計画で重点的に対策に取り組む地域として指定された上川・宮川流域について、水

質調査を継続的に行ってきています。

また、諏訪湖の将来的な水質予測を行うために必要な、流域からの発生源別の汚濁量を求めるため、平成25~27年度にかけて山林の調査や大気中からの降下物についての調査を行いました。これらは、新たな水質保全計画策定に活用されます。

今年の7月には諏訪湖でワカサギの大量死が発生し、当所も含め関係機関による原因調査が行われました。大量死の原因は湖底の貧酸素水塊の混合による湖水全体のDOの低下が指摘されていますが、現在の諏訪湖に関する調査データだけでは十分説明ができない点もあります。そのため、諏訪湖の実態を把握する調査データの充実が求められており、当所も湖内のDO分布など、新たな調査に取り組んでまいります。

(掛川 英男 kanken-mizu@pref.nagano.lg.jp)



写真 諏訪湖覆砂区の調査風景

目次

・ 最近の話題「諏訪湖の環境改善に向けた取り組み」	1
・ トピックス「赤外線センサーカメラでとらえる、高山帯の哺乳・鳥類」	2
・ トピックス「化学物質エコ調査ってどんな調査？」	3
・ お知らせ「サイエンスカフェのご案内」	4
・ 報告「平成28年度外部評価委員会を実施しました」	4